

# Kitasan 通信

## TUTTI



発行責任者／市民クラブ  
発行編集者／北川博規  
第14号  
発行日／2018年10月

敦賀市議会9月定例議会・活動報告

福井しあわせ元気国体及び元気大会がいろいろなドラマを残し、幕を閉じようとしています。大会を支え、運営・ボランティアとして携わってこられた多くの皆さん、ご苦勞様でした。ありがとうございました。みなさんと共に、結果を喜びたいと思います。ただ、単なるイベントとして終わらせるのではなく、この成果をどのように生かしていくのが、今後の大きな課題です。真に成功であったかどうかは、5年後・10年後に明らかになるのだと思います。



平成30年度9月 補正予算 7億5,477万7千円増額  
合計 577億9,263万5千円 (対前年度同期伸率 +1.8%)

### 主な事業

#### ○プラザ萬象改修事業費 1,782万1千円

国道8号線の拡幅に伴いプラザ萬象敷地内の工作物等の移転及び撤去を行う外構改修工事【1,534万4千円】と、大ホール等の照明等の施設修繕【247万7千円】です。道路の拡幅とは言いますが、木の芽橋以南と白銀交差点から工事地点までの国道8号線拡幅の全体像が見えないのが気掛かりです。

#### ○門前町多目的広場整備事業費 4,288万3千円

神楽門前町活性化ビジョンの中には、「商店街の角地の一角に多目的広場を整備し、氣比神宮の参拝客や商店街の利用者が来店しやすい動機づけや動線を創出する」とあります。その土地購入及び実施設計を行うためのものです。面積 575.38㎡  
「神楽門前町活性化ビジョン」の年度毎の具体的な計画が待たれます。

#### ○庁舎立体駐車場整備事業費 1億8,787万3千円

新市庁舎建設中の利便性を考慮して、庁舎別館などの解体(3,945万2千円)・修繕費(349万4千円)と立体駐車場(3階建てで88台収容)を建設していく工事費です。(H30～H31で総額3億6,231万6千円、そのH30年度分です。)

#### ○病児・病後児保育施設整備事業費 1億 162万円

保護者が就労している場合等において、子どもさんが病気の際に自宅での保育が困難などきの保育の場を確保するためのものです。

平成30年度 実施設計・建設工事・解説準備 平成31年度 供用開始予定

#### ○放課後児童クラブ整備事業費 1億1,406万5千円

本年度3つの児童クラブが整備されます。【松原児童クラブ(建て替え)と中央児童クラブ(増築)については、当初予算で計上されています。】今回は、第2粟野南児童クラブ(新築)の整備費です。平成31年度 供用開始予定

### (1) 人的な部分

「教育は人なり」と言われます。これは、教育の成否は子どもたちと向き合う人の「人間力や資質」にかかっているということの意味です。その最前線である学校の人的な配置が適切になされているのかどうかは、学校の教育力に大きく関わってきます。

○人的配置（教職員数）は、どのように決定されていくのでしょうか。

4月に入っても、予定された職員が配置されず、職員を欠いた状態でスタートせざるを得ない場合があります。これを「欠員」を言います。予定される職員数が確保されずに新年度を迎えた場合、学校運営にとって苦しい状況になることは確かです。平成30年度4月、敦賀市の小中学校での欠員は3校で3名でした。

福井県教職員の場合、希望者が減ったとはいえ、平成30年度の志望者数は1,073人、内定者は240人、倍率は4.47倍となっています。そのように希望者が相当数いる中で、職員数が確保できないという状況が発生するのはあり得ない話です。県費教職員である以上、県が責任を持って人的配置をすべきものです。問題は、その確保について、市として県にどのような働きかけをしてきたのかということなのです。

それに対して、「市としては、県に対して、人格、識見ともにすぐれた方で当該学校の免許を有する方の配置をお願いしているところである。」という答弁の繰り返しでした。

予定した人材がやってこないという現場の苦しい思いを共有していることを伝え、欠員となった事情を説明する大きなチャンスをどうして生かせないのかと不思議な思いを抱きました。

○産休・育休・病気休暇を取られている方が安心して職場を離れている状況になっているかという点でも伺いました。「繰り返しになりますけれども、私どもとしては精一杯県の方に配置をお願いしているところなのです。」との答弁でした。

問題は、「精一杯」の部分が現場に伝わり、安心を与えているのかという点なのです。職場の全ての皆さんから祝福され、安心して休暇を取ることのできる職場でなければ、成熟した職場とは言えません。そして、その雰囲気は必ず子どもたちにも、何らかの形で伝わっていくものなのです。そのことを強く伝えさせていただきました。

○今、教育現場は講師の先生方によって支えられていると言っても過言ではありません。それは、本市にとっても例外ではありません。現在の本市の学校で勤務されている常勤講師の方は、5月1日現在で29名です。私自身、これまでに素晴らしい能力と経験値を持っておられる講師の方にたくさん出会いました。新採用の方も優秀ですけれども、講師の方はそれ以上に優秀な方がたくさんおられます。この講師の方を正規の形で確保していくことは人材確保の面でとても大切です。そのためにも、地域枠のようなものをもっていくことは考えておられないのでしょうか。そのような先生方を希望があれば優先的に採用していくシステムを作っていくべきであると考えます。

### (2) 教職員の働き方改革

5月に教職員の勤務実態が公表されていますが、本市の教職員の休憩を除く平日の勤務時間については、「平成29年度と30年度の5月の状況と比較すると、小学校においては11時間1分が11時間10分と9分増、中学校においては11時間49分が11時間34分と15分減となっている」とのことです。対応としては、「特に小学校における勤務時間の削減に向け、校長先生方と相談しながら改善を図っていきたいと考えている。教職員の働き方については、『**校務支援システムを活用し、毎朝の打ち合わせをなくすこと**』や『**統一様式で通知表を作成する**』

こと』さらに『PTAの方々と連携し、20時以降の学校への電話相談を控えていただくこと』などに取り組んできた。しかし、学校の先生方の業務の絶対量が減らない限り明確な改善は難しいと感じており、今後も先生方の働き方改革について、国への要望を全国の市教育長と働きかけていきたいと考えている。」とのことです。アンダーラインの部分については同感です。しかし、現実にはそれぞれの学校現場がかなり業務・事業・行事を削ってきているにも拘らず、小学校では勤務時間増となっているのです。更なる取り組みは、何よりも大切な保護者や地域との信頼関係を崩すことにもなりかねない状況でもあります。つまり、対処療法では、改善できない状態に至っているということです。価値観を変えるような根本的な改善が研究されていかなければならないと考えます。まずは、国の教育予算を他の先進国レベルに持ってくるのが何より大切なのでしょう。

### (3)教育現場の環境【配布資料あり】

※配布資料については、HPをご覧ください。

地球規模での温暖化と異常気象が常態化しているだけに、今や、クーラーの設置は、贅沢な設備ではなく、必要不可欠なものとなっているのは誰もが認めるところです。本市でも、4月から夏季休業までの約4ヶ月の間に、頭痛や気分が悪いなど体調不良を訴え保健室に入室した児童生徒は、小学校で98名、中学校で49名いたとのことでした。ここでは、配布資料も参考にしながら、小中学校の特別教室のエアコン設置について今後の方向性を問いました。理事者からは、「特別教室については、各小中学校における需要度や使用頻度の高い教室を中心に、国の予算の動向を注視し、財源などを勘案しながら計画的な設置を研究してまいりたい」との答弁がありました。確かに、国もその予算を要求していることは新聞報道もされています。ただ、それを待っていたら、また来年も同じ状況になってくるのは間違いありません。

特に特別教室は家庭科の実習、理科の実験、美術の鑑賞・制作・そして音楽といった普通教室では授業が成立しづらいから設けられています。カリキュラムを変更したり、授業内容を省いて授業していくことは、それこそ「教育県を自負する福井県」ではあり得ないことだと思います。

### (4)これからの教育の姿と課題

今、教育現場はいろいろな課題を抱えています。それらは、知らないうちに進められていることも意外と多いものです。ただ、教育に関する事柄は、国の在り方や方向性を指し示す大変重要な事柄であるだけに、我々もしっかり見定めていかなければならないですし、行政として市民に丁寧な説明をしていく責務があります。

ここでは、取り上げた4点（①「小学校での英語の教科化」②「特別な教科道徳の評価」③「特色選抜」④「共通テスト」）の一つ一つについての詳細な内容は記せませんが、それぞれが重要課題であり、その動向に無関心であってはならないと感じています。

その中で、確認したかったことの一つは、「市教委のリーダーシップ」の在り方です。これについては、「本来ならば市教委の立場としては、学校の校長先生がリーダーシップをとってそれぞれ教育課程を運営するわけですので、校長先生方の業務がやりやすいような状況、さらには学校の先生方が仕事ができやすい環境を整えるというのが我々市教委の業務であると捉えている。その意味で、我々としては今リーダーシップをとっているというものではない。環境を整えているということである。」との答弁でした。一見、なるほどと感じる答弁です。ただ、「人的な部分」でも感じてきましたが、市教委のスタンスと現場との間に「乖離」があるような気がしてなりません。

もう一つ、「環境を整える」とは、具体的にどういうことなのでしょう。何を整えてきたのでしょうか。その点をこれからもしっかりと確かめていきたいと思ひます。決して現場任せにせず、「ぶれない体制」をとっていただきたいと思ひます。

紙面の関係で、図書館整備費については、記すことはできませんが、次年度の姿をしっかり見ていきたいと思ひます。

大切なのは土壌です。豊かな教育・文化醸成の土壌をつくり上げていくことこそ市教育行政の使命なのです。その自覚のもと、子供たちの意欲喚起のためにリーダーシップを発揮していただきたいと思ひます。

## 活動の足跡(7月・8月・9月)

7月 2日 市内小中学校訪問(～8/2)  
 3日 文教厚生委員会視察  
 (熊本市・福岡市 他)  
 7日 戦死者戦没者追悼式典 列席  
 15日 カッターレース 参加  
 14日 敦賀高校同窓会「青雲祭」参加  
 17日 市職員組合定期大会 列席  
 24日 広報広聴委員会  
 25日 F-TOP21敦美支部議会報告会  
 26日 嶺南地域協議会「日本PS見学会」  
 28日 青少年健全育成市民会議 参加  
 31日 消防議会視察研修(糸魚川・  
 富山県広域消防防災センター見学)

8月 2日 広報広聴委員会  
 9日 県教職員組合政策懇談会に参加



18日 教職員体育大会 列席  
 21日 9月議会開会 (～9/13)  
 24日 市内四中学校吹奏楽部 合同発表会  
 30日 一般質問(北川)

9月 2日 敦賀まつり  
 5日 文教厚生常任委員会  
 6日 新幹線特別委員会  
 元気国体・元気大会 壮行会列席  
 7日 市庁舎建設対策特別委員会  
 10日 予算決算常任委員会  
 12日 駅周辺整備構想策定委員会 傍聴  
 13日 本会議最終日  
 22日 広域避難  
 津内3丁目奈良市視察研修 参加  
 26日 市庁舎建設市民説明会 参加

### 「不易と流行」というもの

『求められる力が変われば、学校教育も変わる。学校教育が変われば、測り方も変わる。』と言われます。今その求められる力が変わりつつあるのです。人口減少と超高齢化が進んでいくこれからの社会を担っていく子供たちに、将来の社会の姿を示し、その社会を支えていく覚悟と自らの生き方を考えさせる時間は、不可欠なものだと思ひます。

一方、不易(変わるはずのないもの、変わってはならないもの)の部分も重要です。その究極のものは、「命」に対する謙虚さと畏敬の念なのだと思ひます。その哀しみもまた、人である以上、不変のものであると感じるこの頃でした。

TUTTIはどうしても私の活動報告が中心となります。一般質問の詳しい内容は、ホームページに掲載させていただいております。(右のQRコードをご利用下さい。)年4回発行されている「市議会だより」では、市議会全体の様子が紹介されていますので、是非併せてご覧下さい。いろいろなご意見をいただければ幸いです。



発行責任者 市民クラブ

編集責任者 北川 博規

E-mail [h.kitagawa131@gmail.com](mailto:h.kitagawa131@gmail.com)

ホームページ <http://kitagawa-hiroki.net/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/hiroki.kitagawa.754>

敦賀市津内町1丁目12-10 TEL. 090-1319-6667 FAX. 0770-22-4121

この議会だよりは、一部政務活動費で発行しています。